



インタ
ビュー

負荷のない自然な状態へ身体を回帰させる木と土と火の家 —左官による伝統工法の自宅兼アトリエ—

建築設計：吉能雅人／左官施工：左官吉田

▲漆喰を基調としたキッチン

はじめに

源頼朝ゆかりの鶴岡八幡宮は古都・鎌倉を代表する観光スポット。その喧騒を東に抜けて鎌倉宮と荏柄天神社の参道が交わる辻近くに黒い焼杉板張りが印象的な住宅が現れる。建築家・吉能雅人さんの自宅兼アトリエだ。木と土でつくられた住まいには、吉能さんの建築家としての思いが詰まっている。

今回、吉能さんの住まいを訪れ、住宅設計の考え方、設計のポイント、今後の展望などを伺った。(取材T)

きっかけはシックハウス症候群

—設計のポイントや仕上げについて教えてください

今回の設計では、なるべく身体に負荷をかけない暮らしができるように素材選びからはじめたことです。自宅を設計したのは、これで二軒目ですが、これまでは都内の狭小地などにデザイン住宅を設計していて、その狭小住宅の集大成として都内に建坪が7坪の自宅を建てました。デザインや素材にも拘り、天窗から光が差し込むような近代的な建物でした。ところが、そこへ住みはじめた途端、シック



▲焼き杉板張りが印象的な外観

ハウス症候群になってしまったのです。過去からの化学物質の暴露の蓄積があったからでしょうか、幸いにも家族のなかでシックハウス症候群となったのは私だけでした。ただ、建築家としてデザイン性に優れた現代建築を追い求めて設計をしてきた私にとって、自分の設計した家がシックハウスになってしまった。今回の住まいづくりは、そこからスタートしています。